

発行所 (郵便番号100)
 東京都千代田区丸の内2-4-1
 丸の内ビルディング781号室
 社団法人スウェーデン社会研究所
 Tel (212) 4007・1447
 編集者 中嶋 博
 印刷所 関東図書株式会社
 定価200円 (年間購読料参千円)
 1983年6月25日発行
 第15巻 第6号
 (毎月1回25日発行)
 昭和44年12月23日第3種郵便物認可

スウェーデン社会研究月報

Bulletin Vol. 15 No. 6

Japanska Institutet För Svensk Samhällsforskning
 (The Japanese Institute for Social Studies on Sweden)
 Marunouchi-Bldg., No. 781. Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan

スウェーデン経済の回復について

On the Recovery of Swedish Economy

評議員 東海大学教授 永山 泰彦
 Prof. Yasuhiko Nagayama

石油ショック後、長くて暗い冬の季節を過ぎてきたスウェーデン経済にも、1983年の春とともに久し振りに明るい展望が開けてきたようである。昨年秋に実施された、16%におよぶクローナ的大幅切下げの効果もあって、1982年第4・4半期から輸出が増加の傾向をみせていたが、83年に入ってから明らかに急速に回復してきた。自動車、プラント・エンジニアリング、機械類などの輸出が急増し、今年3月の輸出総額は史上最高を記録した。

さらに、景気の先行きを楽観視させる背景には、労働側がパルメ首相の呼び掛けに応じて、ほとんどストなしに、2%以下という低率の賃上げで3月11日妥結したことがあげられる。このような背景で、パルメ首相は、今年の修正予算案の発表の際には、物価上昇率を4%以下に抑えるという強気の見通しを発表した。さらに、5月末にはパルメ首相は、主要企業の経営者を集め、スウェーデン経済・産業の再建について懇談を行なった。スウェーデンの経済界は、現政権の指導力と矢継早に打出す政策を、好感をもって迎えており、久し振りに楽観的なムードが国内に出てきた。在庫調整も終了し、また設備投資が急速に回復する兆しを示している点に、経済再建への期待感が強まっている。

例えば、ストックホルム株式市場は力強い値上りをみせ、パルメ政権誕生後わずか半年で、時価

総額は2倍以上に値上りした。これは最近の世界的な株高現象を反映しているのであろうが、日本の常識に反する社会主義政権下の株高とは何を意味するのであろうか。

しかし、スウェーデン経済には依然として構造的な問題が残されており、とりわけ巨額な財政赤字や対外債務の処理が将来の課題であろう。今年の財政赤字も歳出額の約30%に達している。

パルメ首相は野党党首の時代、経済不振は過大な福祉のためでなく、むしろ福祉が不十分なためであり、福祉の充実が経済の効率を損うという説を信じないという信念を表明していた。高齢化社会の到来を目前にしているわが国にとって、スウェーデンの今後の経済政策とその成行きは注目されよう。

目次

スウェーデン経済の回復について	
……………永山 泰彦…	1
<Göteborg通信>引越のこと、グニラさんのこと等……………	三瓶 恵子…2
筑波科学博へボルボ社二両連結バス100両……………	3
政治問題研究会 (潮見憲三郎) ……………	3
(新刊紹介)世界の幼児教育……………	3
SIPニュース……………	4
Current Swedenの目次……………	5

引越のこと、グニラさんのこと等

会員 三 瓶 恵 子

Ms. Keiko Sanpei

★つれあいの仕事の都合で、エーレブロー Örebro からヨーテボリイ Göteborg に引越をしました。急な引越だったので住宅さがしが大変でした。住宅斡旋機関 Bostadsförmedlingen に申し込んでも、一日にバス数本しか通わぬという辺鄙なところしか示してもらえず、結局地方新聞の住宅案内と首っぴきで一カ月かかってアパートをさがしました。予算と広さのかねあいから市内中央はまったく望めず、空室の多くある郊外団地の一つに決めました。注意を殊更に払っていたためか、新聞記事でも市部の住宅難、郊外地区の過疎化が多くとりあげられていたような気がします。

住居を決めるにあたって一番悩まされたのは、ミウわさ^{ミウ}です。いくつかある郊外団地はどれも「社会問題」をかかえているのだというのです。いわく移民が多い、アルコール中毒者が多い、失業中の若者が多く悪さばかりする、盗難が多い等々。知人、友人は親切心からそのようなうわさを教えてくれて、あそこはダメ、ここもダメと忠告をしてくれるのですが、誰も実際にそこに住んだ体験から言っているわけではないのです。

うわさに負けず、安さに負けて、借りた3DK、70m²の住まいは、近代的設備のととのったもので、駅からの便もよく、中心街の同じ広さのところと比較すると半分以下の家賃です。試みに今日の新聞に載っている広告の家賃を平均すれば、大体、3DKでは1,700~2,500クローナが相場ようです。(郊外の場合。今日は市内のアパートの広告はでていませんでした。) マンション Insats-iägenheter/bostadsrätt iägenheter は、バラエティに富んでいて相場も何もないようです。アパートの家賃はエーレブローでは1割方安く、また、ストックホルムでは1~2割方高くなるようです。

私達の選んだところは、確かに移民の多いところで、市電の中でもギリシア系やトルコ系の子ども達が流暢なヨーテボリイ方言 Göteborgska (抑揚がダイナミックです)を話しているのを聞くと、なんだかおかしいような、おもしろいような変な気がします。ヨーテボリイ市内には、日本人が何

十人が住んでいて交流もあるそうです。四人しかいなかったエーレブローよりは社交的生活をおくことになるかもしれません。

★「日本人」で思いましたが、(本当はこちらを先に書くべきでした。)スウェーデン社会研究所でスウェーデン語を教えていらしたグニラさん Ms. Gunilla Lindberg-Wada がストックホルム大学で博士号をおとりになりました。(5月6日にアメリカのミシガン大学から対抗論者 Opponent を招いての公開最終審査 disputation がおこなわれました。)彼女の論文は「Poetic Allusion—Some Aspects of the Role Played by Kokin Wakashuu as a Source of Poetic Allusion in Genji Monogatari」^{ミウ}という、源氏物語における引歌をとりあつかった大部なものです。(ちなみに、日本語で書かれた和歌の部分と表紙は、木村浩子さんがおかきになりました。)

ヨーロッパでは、源氏物語の引歌研究の専門家はグニラさんしかいないと、彼女の指導教官である Chou 教授がおっしゃっていました。私は彼女の一番できの悪い生徒でしたが、なんとなく私まで誇らしい気分になりました。グニラさん万歳!

★ようやく春になって、たんぼぼが咲きはじめてというのに、ここ一週間ほど雷をとともなる春の嵐が続いています。雨と晴れ間がまるで日本の台風のようにくるくる交代します。今朝などは、中部スウェーデン一帯集中豪雨で、特にウップサラ、ストックホルムでは雷がひどく、おりからの潜水艦爆撃さわぎもあって、防衛庁への問い合わせ電話が何百件もあったそうです。

ヨーテボリイではそれほどの雨ではありませんでしたが、ウップサラまで通う途中、線路の下が土が流されたため列車が遅れ、間接的な被害をこうむりました。(そうでなくてもスウェーデンの列車は定刻通りに動くのは50%以下なのです。国鉄S Jが堂々と発表しています。)あと2、3日たつて雨があがれば、それこそパラダイスのような北欧の春となることでしょう。日本ではもう初夏でしょうか?

<トピック>

筑波科学博へボルボ社 二輻連結バス 100 輻

三井物産は、5月23日、スウェーデン・ボルボ社の二輻連結バス（つながりバス）100輻を国際科学博覧会協会から受注したと発表した。このニュースは翌24日のNHKニュースおよび毎日新聞でも報ぜられたが、スウェーデン科学技術水準の高さが我が国で改めて認められたものであり、両国の絆をより強くするものとなる。

なお、このバスは全長約18メートル、乗車定員162人で、85年3月から半年間開かれる「科学万博つくば'85」で入場者の輸送用に使われる。総額40億円といわれる。

研究会報告

政治問題研究会

—スウェーデンの情報自由・守秘義務・マスコミ倫理—

講師 環境・社会政策研究所主宰 潮見憲三郎

5月26日、標記の研究会が午後2時より開かれ、講師の報告のあと、出席者を交えて定刻を過ぎるまで熱心な質疑応答や感想の交換が行われたが、その報告の要旨は次のとおりであった。

みんなが異なる意見・情報を最大限自由にやりとりする、というのが憲法の原則であり、公文書もその情報の一つとして「プレス自由法」（これも憲法）のなかに規定が織り込まれている。自由への例外は法の明文により、しかも例外はつねに制限的、つまり「自由」への傾斜が明らかである。他方、「表現しない自由」や「匿名権」という憲法条文によるプライバシー保護も強い。「情報自

由」は主権者としての市民の政治への「参加」の条件をととのえ、消費者としての市民に市場で企業と対等にわたり合う力を与え、文化面ではマスコミと市民の間の力関係を平等なものにする。要するに「情報自由」の論理は「平等」の論理、ヨコ社会の掟であり、スウェーデンでは福祉政策でその実体化を図っている。ハーマン・カーンは「日本人には平等という概念が理解できない」と言ったが、その意味で「情報自由」は「タテ型」であるわれわれの政治と社会を少しづつ作り変える力となって働くものである。

（事務局）

<<新刊紹介>>

世界の幼児教育（全9巻）

『世界の幼児教育』全9巻が、このほど日本ら**いぶらり社**から発行されました。そのうちの第4巻は「北欧・スイス」で、その編集者は当研究所常務理事中嶋博です。北欧の部の執筆には、中嶋博常務理事のほか、当研究所理事小野寺百合子、同会員の藤田千枝氏、三瓶恵子氏が当たりました。

約400頁にわたって北欧の幼児教育について網羅してあります。

これは分冊販売はされませんが、当研究所に上記の第4巻を備えつけてありますから、どうかご利用下さい。（全巻セット販売価額69,800円）

（事務局）

— 正誤について —

当月報の前号（Vol. 15 No.5）の第1ページの潮見先生執筆記事中、左欄16行目の年代1948年は誤植にて、1974年が正確でありますのでお詫びして訂正させていただきます（事務局）

本年度のブルーカラー労働者の賃金交渉妥結

先月来、労使間で賃金交渉が続けられてきたスウェーデンで、この3月11日に、最大の経営者団体であるスウェーデン経営者団体連盟(SAF)と一方の旗頭スウェーデン労働者総同盟(LO)との間に最終的合意が成立し、その結果、同日予定されていた商工業の拠点ストライキは寸前に回避された。なお、交渉の結果まとまった本年度全国50万のブルーカラー労働者を対象とした労働協約は次の二点を含む、すなわち、本年度の平均賃上げ率は1.9%、さらに賃金ドリフトの恩恵を被らない労働者の保証条項を設けること。

この賃金ドリフトに関する条項が、此度の労使交渉を難行させた主要因で、SAFは、初め、労働協約にこの種の条項をもち込むことを拒否していたが、一方のLO側が賃金ドリフトの補償は労使が賃金政策上の連帯を計って行く上での大原則であると主張して譲らなかつたため、此度の成立が成ったといういきさつがある。今後、両団体(SAF、LO)は協力して、賃金ドリフトを最小限に留めるような賃金システムについての研究を行なってゆく予定という。

また、LO最大の労組である金属労(組合員およそ20万人)は以前より経営者側(SAF所属)と単独交渉を続けていたが、この3月5日に、賃上げ率2.2%を含む労使間の合意が成立した。ただし、こちらの労働協約には先の保証条項が含まれておらず、雇用者側は、給与支払い税の値上げや昨年よりの流出分等を含み、従来のおよそ10%増しの支出を強いられることとなる。

なお、130万の国家公務員及び地方公務員により組織されている労組も調停委の指示した「賃上げ率1.4%及び経済の他部門との賃金ドリフトに対する限定的補償のための保証条項の設置」という条件のみ、労使間の合意が成立したと伝えられる。

拡充される脱税防止法

従来の脱税防止法の拡充法案が、2月16日、171対148で、スウェーデン議会を通過した。修正案は、民社党の発議、共産党の後押しによるものである。

元来、一般法の方は、1980年度末に非社民政府

により、1981—1985年度までの試行期間を設けることを条件に、導入されたもので、商業上—あるいはその他—の理由もなく複雑で、煩瑣な手順を踏んで、税金の支払いを全額または一部回避しようとする試みを阻止するためのものである。1983年度3月1日より、実効予定の新法は脱税の意味合いを明確にするという観点において、従来法の強化であり、その手段の別にかかわらず、意図されぬ税の軽減を目的とした処作はすべて脱税行為に相当することになる。

なお、国会討議の際、非社民党は、此度の新法案を、あいまいで独断的にすぎるとして批難したと伝えられる。

新強化ケーブル

ボルボ自動車工業グループの二人のエンジニア、グンナルフリーベリ(Gunnar Friberg)とカールエーリクマトソン(Karl-Erik Mattsson)が、新しい溶接ケーブルを開発した。同ケーブルは、ゴムで強化されており、将来の自動溶接ロボットの有益性に関して、非常に重要な役割を果たすものと見られている。

従来、ケーブルのゴム製の被覆が裂けたり、冷却水がもれたりすると、内部の電線に損傷がなくとも、ケーブル全体を廃棄処分に回していた。此度の新ケーブル開発で、この種の無駄が大幅に減じられることとなるという。テニス結果では、新ケーブルは、従来のものに比べ、極めて秀れた耐久性を有することが実証されている。強化材も、ごく一般の溶接ケーブルに使われているものより、丈夫で、柔軟性がある。

新ケーブルの開発に関連して、二人の技術者は、電線を互いに分離する鉄心の材料並びに形状の改良に成功したと伝えられる。

新ケーブルは、まだ、テスト段階にあるが、目下、特許を申請中である。春には、スイスの企業により、イタリアで製造が開始される。なお、ウエーデンには、新ケーブルのメーカーはない。

Current Sweden の目次一覽 (8)

スウェーデンの政治、経済、文化などあらゆる方面のトピックスを速報する The Swedish Institute 発行の Current Sweden の最近号の目次をご紹介します。(Vol. 13 No. 12 につづく)。
内容についてのご照会には、当研究所も可能な限りお答えいたします。(事務局)

No.	Date	Title
277	'81.11	Rolf Skog : Wage-earner Funds : The Dedate Continues.
278	'82. 1	Anders Lewander and Sam Miller : The Disabled in Sweden : Handicaps and Recreation.
279	1	Lillemor Thalín : The Economic Situation in Sweden in the Fall of 1981.
280	2	Lennart Lindeborg : Computer Technology in Sweden.
281	2	Bertil Hägerhäll : Acidification of the Environment in Sweden—the Massive Destruction of National Ecosystems.
282	3	Lasse Svanberg : The Rapid Growth of Video in Sweden.
283	4	William Dampier : Sweden's Energy Plan : 50 Percent Less Oil Within 10 Years.
284	5	Gunvor Hildón : Election Year '82 : Major Political Issues as the Election Campaign Gets Underway.
285	5	Sven Svensson : Election Year '82 : Austerity or Higher Taxes—Sweden Faces Hard Economic Policy Choices.
286	5	Staffan Sonning : Election Year '82 : Employee Funds.
287	5	Claes-Göran Kjellander : Election Year '82 : New Tax System Splits the Bloc Structure of Swedish Politics ?
288	6	Elisabet Höglund : Election Year '82 : End of Party Truce on Swedish Labor Market Policy.
289	7	Elisabet Höglund : Election Year '82 : Cut in Health Insurance Benefits—A Controversial Austerity Measure.
290	8	Inga-Britt Törnell : The Swedish Equal Opportunities Ombudsman at Work.
291	8	Ulf Brinck and Olle Östman : Psychiatric Care in Sweden.
292	9	Monica Boye-Møller : A Review of Immigrant Education in Sweden.
293	9	Bertil Hägerhäll : Sweden and the United Environment Programme—ten Years after the Stockholm Conference on the Human Environment.
294	9	Jan Freese : The Swedish Data Act
295	10	Sigfrid Lei Jonhufvud : New Departures from the Middle Road (Election Year '82)
296	11	Claes-Göran Lillieborg : Are Swedish Animated Films Heading toward a New "Golden Age" ? (A Short Introduction to Swedish Animated Films Today.
297	12	Erland Bergman : A Swedish Dilemma—Ethnic Conflicts in Sweden
298	'83. 1	Göran Hügård : Children and Road Traffic in Sweden
299	1	Jan Magunus Fahlström : Current Economic Trends in Sweden
300	4	Ingrid Almladh : New Proposed Amendments to Sweden's Penal Code Regulations on Sexual Misconduct

高令化社会調査視察団 —老後生活の充実を求めて

期間 58年8月28日より9月11日 訪問国 スウェーデン、ノールウェー、デンマーク、オランダ、ベルギー、フランス

高令化社会の進展のなかで、いかに長い老後の生活を充実してゆくか、また有能な高令者の増加をどう考えるかの問題は、単に高令者個人の問題であるばかりでなく、社会にとっても重要な問題である。

この視察団の目的は、これらの点に関し、わが国より一歩早く高令化社会を経験したスウェーデンほかヨーロッパ諸国が、いかに対処し、またいかなる問題をかかえているかを調査することである。

また、今回の調査視察においては、諸国の実情の調査のほか、シンポジウム等を開催して、日本の実情も紹介し、意見の交換を行って理解をふかめることも計画した。

コーディネーター 日本社会事業大学教授 三浦文夫

1 調査する主な項目

- イ 高令者の労働に関する考え方、実情、対策と問題点
- ロ 高令者の社会活動参加に関する考え方、実情、対策と問題点
- ハ 高令者教育に関する考え方、実情、対策と問題点
- ニ 高齢者のスポーツに関する考え方、実情、対策と問題点
- ホ 高令者の余暇利用に関する考え方、実情、対策と問題点
- ヘ 高令者の家族との関係に関する考え方、実情、対策と問題点
- ト その他高令者の福祉に関する問題点

2 シンポジウム又はワークショップ

(テーマ) 老人生活の充実化に関する考え方の日本の場合との相違

3 視察先

都 市	視 察 先 ・ 調 査 事 項
ストックホルム (スウェーデン)	<ul style="list-style-type: none"> ・老人就労の実験プロジェクト研究 (ストックホルム郊外リディング LIDINGÖ) ・老人センター Senior Center (同上) ・サービスセンター (パルト海周辺) ・教育庁 (老人の社会教育) ・ATLAS COPCO AB 訪問 (機械工業……代表的企業の一例として) ・シンポジウム開催……各機関より専門家の参加 (厚生省、経営者連盟 S A F、労働組合 L O、その他)
オスロ (ノールウェイ)	<ul style="list-style-type: none"> ・MULTY PURPOSE CENTER FOR ELDERLY
パリ (フランス)	<ul style="list-style-type: none"> ・ユネスコ (社会教育部 ほか) ・高令化問題研究センター CLEIRPPA (CENTRE DE LIAISON DETUDE D'INFORMATION ET DE RECHERCHE SUR LES PROBLEMÉS DES PERSONNES AGÉS)
ブリュッセル (ベルギー)	<ul style="list-style-type: none"> ・EC本部 (老人教育に関する講話と資料集収) ・余暇開発財団 ・INFOR—HOME の活動視察
アムステルダム (オランダ)	<ul style="list-style-type: none"> ・EINDHASSN でのワークショップ (老人のパート労働) ・サービスセンター (老人向サービスセンターの発祥地) ・NEIGHBORHOOD SELF-HELP (老人のボランティア活動) 状況調査 ・その他高令者の社会教育、ボランティア活動の実態調査
コペンハーゲン (デンマーク)	<ul style="list-style-type: none"> ・MULTY PURPOSE CENTER FOR ELDERLY

……パンフレットをお送りします、当研究所へお電話下さい (03 | 212—4007)